

あくまでも自分史として

「岳陽」と共に

第 32 号

発行日
2024. 7. 30
編集・発行
井上講四／堂本彰夫
※連絡先
〒901-2225
沖縄県宜野湾市
大謝名 3-13-24
教育協働研究所
～岳陽舎～
(井上講四宅)
Tel:098-963-9282
E-mail:
gakuyou17@outlook.jp

○何と「いつ」で「今は」「こんな」とも実現させろ！

過日、とんでもない歌い手 (A d o) の存在を知った！そして、彼女が、昨年のNHK紅白に出演していたことも思い出した！あの林修氏がMCを務めるテレビ番組 (録画) を見てであったが、私 (達の世代) からすれば、その存在 (の状態)、活躍ぶり (日本ばかりではなく、世界からも熱狂的な支持を受けているようである) は、ほとんど信じられないものである！

ところで、その楽曲や歌い手の魅力はともかく、この、直接的姿を見せないボーカロイド？というところについては、ほとんど分からない私であるが、私が興味をもったのは、彼女の育ちやキャラであり、しかもそれが、まさに、現在のネット社会によって生み出されたものという点に對してである！古典的な言い方とはなるが、人間は、環境によって、どのような存在にもなれる (創られる) という点である！

下手な教育論をここで出すつもりはないが、最早全世界を瞬時のうちに繋げるネット社会の光と影のクロスオーバーの中で、こうした若者 (ある種のスター) が出て来たことは、最早それが所与のものであり、社会 (この場合は教育界) は、それから目を背けることは出来ないという点である (今回の都知事選での1候補のこともそうであるが)！

なお、その後、その彼女の顔バレがあつたそうである！「3枚の写真が公開され、その理由はまた謎に包まれていきます。」とあるが、引きこもる若者達の中で (彼女もそうであったらしい)、自らの思いや生き方を、自宅のクローゼットの中で、ICTの活用 (楽曲づくり) によって実現させた！現在、「その彼女の顔に対する興味や関心が高まっていきます！」とあるが、そこはあまり突っ込まない方がよい！！

○幻の神社巡り？それだけは、雨に阻止された！

過日 (13日～15日)、久しぶりに福岡を訪ねた！名目 (表向きの旅の目的) は、高校時代のミニ同期会 (福岡在住の人達による) に参加 (闖入) させてもらうことであつたが (ちなみに2回目)、これから先、いつ行けなくなるか分からない中で、そして、繰り返し怠惰な老いの日常を、多少なりとも打破？するために、外泊を伴う遠出 (海を渡る？ちょっとオーバーか) をしたかったということでもある (ついでに神社巡りも) ！！

案内を受けた会場 (博多駅近く) には、簡単に着けるだろうと、高をくくっていた私であるが (今回は、スマホデビューもしていた)、やはり着けなかつた (マップが読めない)！結局、今回も、私と同じように県外 (千葉から参加していたY君と、博多駅まで戻って合流し、何とか間に合つたのであるが、何とも都会は分かりづらいものである (年寄りの悲哀とは、まさにこれ)！

当日 (13日) は、かの「祇園山笠まつり」の初日もあつたが、夕方の会には余裕があつたので、今回もまたお世話になる次女のマンションに先に行き (ただし、彼女は、事情があつて不在)、その後、まつり会場の櫛田神社／川端通りまで行き (そこでラーメンを食つた)、束の間のまつり気分を味わつたのはよかつたが、その後の結末は、先の通りなのである！

なお、次の日は、別途密かに楽しみにしていた、福岡県南部の神社巡りの予定であつたが、生憎の雨天のために、中止を余儀なくされた！付き合ってくれた3人の同志？ (天神でランチ) には感謝しつつ、次回を期したい！

○予期せぬ、次女の一時帰郷が複雑たつたが、楽しかつた！

上記とも関係するが、昨日 (24日)、予期せぬ帰郷？ということ、2週間余、我が家に滞在していた次女が、福岡に戻つていった。その滞在の理由については、ここでは直接書けないが、先にも書いたように、私の福岡での宿泊 (次女不在の二泊) は、誠に奇妙なものともなつたわけである！幸いにも、合鍵はあつたので、泊まることは出来たが、娘不在の家に、父親が独り寝泊まりするなんて、あまりあることではない！！

貴重な体験と言え、まさにそうなのであるが、それにしても、人生とは、いつ、何時、どんなことが起こるのか分からないものである (特に病気は)！これもまた、彼女の長い人生の1ページであるので (かなり長くはなっているが)、温かく見守つていく他ないが、とにかく、これから (もう)、元気に、そして、納得のいく人生を送つて欲しいものである！

ということ、そんなこんなの日々ではあつたが、私にとつては、久しぶりの (20年以上も前)、だが、終わつてみれば、あつという間の、我が娘 (次女) との同居生活は、何とも懐かしいもので、心情的には、それなりに複雑ではあつたが、とても楽しいものもあつた！そして、何故か、元氣ももつた！その証左は、何と言つても、それぞれ古くなつていた家電製品 (テレビ・ブルーレイ・サーキュレーター、そしてエアコン) を、ことごとく買い替えたことであるが、彼女の滞在と帯同がなかつたならば、それほどの買い物はしなかつたであらう！！

彼女のもつ知識と組み立て技術が、大いに手助けとなつたという点でもあるが、つくづく親 (老親) と言うものは、いつまで経つても、子との買い物は、嬉しいものであり、元氣が出るものである！！否、私自身は、そういうことはともかく (我が奥さんの方が詳しい) ので、任せていたということもあるが、その買い替えのプロセス (時間の流れ) 自体が、昔を思い出すようで、懐かしかつたということである (かなりの出費ではあつたが)！！

だが、そういう時間も、いつの間にか過ぎ去つてしまった！時は、否が応でも流れていく！とは言え、もうじき、新たな流れが始まる！ただし、その繰り返しではあるが… (井上)

○「現在」は、「過去」の結果、「未来」の原因である！

さて、私堂本としては、表面の記事を見ながら、ここで、何とも怪しげな物言いともなるが（しかし、誰しもがそのようなことを思いながら生きていく）、それに呼応しておきたい！やや忙しい、否、通常の、まさにありきたりの生活から少し抜け出すことが出来た、ここの一月ばかりの状況の中で、自らの「現在」を、標記のように思ってみたいということである！

細やかな旅先選びや、家族や知己との再会、そういうことも含めて、「現在」は、「過去」の結果であり、それがまた、「未来」の原因ともなるということであるが（一番強く思うのは、国家間の争いや、選挙時の、各候補者（政党の言動ではあるが）、それは、自らが生み出してきた「生」の現実なのである！人との出会い、再会、新しい場所への訪問、そして、何よりも、目まぐるしく動く周囲の状況が、そうしたことを思わせるのであろうが、「その時」を生きているということは、まさに、その時代にある自らの「現在」を生きているということなのである！

そして、その「現在」は、すべて己が関わる、否、所属する社会や国家が、そして、そこで生きて来た先人達（親を言む）が、幾多の喜怒哀楽を伴って、苦勞して作り上げてきた「過去」の結果であり、そしてまた、それが、これからの「未来」の原因となるということである！言うなれば、その時々生きる人間（我々は、その「過去」と「未来」の交差点に生きていくということであり、その交差点自体からは逃れられないということでもある！

だが、その交差点の意味や風景は、常に変えられるものであり、決して不動のものではない！否、考えようによつては、自らの納得によつて、いつでも自分のものになるというのである！問題は、その意味や風景を、自らの思いや行動で変えられるかどうかであるが、そこに、各々の「存在」の価値がある！それは、単に時代（他人）から与えられるものではないということでもある！

○暑さ厳しき中、今年の夏休み？は大てんこ盛り！！

最早、世間の夏休みとは、まったく無縁である私（達）であるが、その余波？は、確実にある！それ自体は、誠に喜ばしいのであるが、それに伴う、幾多の多忙（我が奥さんだけが！）、そして心配事（台風もあつて！）が頻出する！！娘達、特に、宮崎にいる長女一家の里帰り？がそれであるが、今年もまた、大挙して（5人が、二波に分かれて！）？我が家を襲うことになりそうである！残念ながら、一足早く里帰り（二時帰郷？）した次女とは会えないのであるが、岡山に住む三女も一緒なので、狭い我が家、そして、二階のクーラーの活用能力の問題もあり、大変な日々となる！

そんな中、今年も、パリオリンピックもある！バレエボールとサッカーの試合を楽しみにしているが、また、夏の高校野球もある（今回の沖繩代表は、いつもの興南高校！）さらには、来月の3日には、再び、岡山の大学教授（教子？）S君が、沖繩を訪れることになっている（同期のOさんと会える！）！言わば、今年もまた、てんこ盛り、大てんこ盛りの夏休みということでもある！

- ・短歌に託して今年も、てんこ盛りの夏休み？！
だが壊されるな！ そして自分を見失うな！
- ・久し振りの福岡行 そして幻の神社巡り？
奇妙な時空であつたが、これもまた生の一環！！
- ・予期せぬ次女の 一時帰郷？
複雑であつたが、楽しきことばかりなり！！
- ・「現在」は 「過去」と「未来」の交差点！
だがその点の価値は 自らにあり！
- ・夏休み 今度のそれは 大てんこ盛り！！
だが大変なのは 我が奥さんだけ！！

〈特別コーナー〉堂本彰夫の古代史旅枕 ②〇〇

○改めて、古代九州の全体像を探る―その3―
ということ、今（から）は、しばらく、かの「高良大社」に関わる情報を整理していこうと思うが、まずは、その祭神（全祭神）についてである。ちなみに、高良大社は、福岡県久留米市の高良山にある神社で、式内社名神大社、筑後国一宮。旧社格は国幣大社で、現在は神社本庁の別表神社。古くは高良玉垂命神社、高良玉垂宮などとも呼ばれたとある。古代から筑紫の国魂と仰がれ、筑後一円はもとより、肥前にも明海に近い地域を中心に篤い信仰圏が見られる。厄年の厄はらい・厄除け開運・延命長寿・現代では交通安全のご利益でも名高い。また芸能の神としての信仰もあるという。そして、高良大社自体が名神大社、筑後国一宮であるほか、本殿に合祀されている豊比咩も神社が名神大社、境外末社の伊勢天照御祖神社が式内小社、味水御井神社が筑後国総社であるとされる。社殿は国の重要文化財に指定されており、神社建築としては九州最大級の大きさである。

さて、問題の祭神であるが、正殿：高良玉垂命（神紋は「榎木瓜」、神使は「鳥」、左殿：八幡大神（神紋は「右三巴」、神使は「鳩」、右殿：住吉大神（神紋は「五七桐」、神使は「鶴」）。この他、本殿内には御客座があり、豊比咩大神が合祀されている。高良玉垂命とは、夫婦との説もある。神階は正四位下。また、御客座には、境内にあつた坂本神社の祭神などが合祀されている。高良玉垂命は、朝廷から正一位を賜っているものの、記紀には登場しておらず、正体が誰であるかに関しては古くから論争があり、武内宿禰（物部保連 説、藤大臣（中臣島津臣命、藤大臣保連、月天子、住吉明神の化身、物部氏の遠祖）、物部胆作連、物部保連 説、物部祖神（饒速日命、物部胆作連、物部保連 説、彦火々出見尊説、水沼君祖神説等、諸説があるらしい。江戶時代には、武内宿禰に比定する説が主流であつたが、明治以降は、特に比定されていないとも！何とも、不思議な祭神なのである！私自身は今のところ、「開化天皇」が怪しいと思つてはいる！！（つづく）（堂本）

〈編集後記〉気がつけば、あつという間に、夏休み突入！そして、オリンピックも始まつた！それにしても、今年も暑い！これが、これからは当たり前になるのかもしれないが、それに順応していかなければならない！何が、どのように変わっていくのか？気候だけではない！それは確かだが、全貌は、まだまだ、私の現在からは見えてない！！（井上／堂本）